

いきいき 菜園生活

さいえんせいかつ

農 芸 指 導 員 の 芳 田

ペチュニア栽培について

夏の花壇やベランダ、窓辺等を彩る草花は色々ありますが、その中でも花色が豊富で長期間楽しめ、なおかつ初心者でも比較的簡単に育てることが出来るペチュニアを紹介します。



企画営業課 芦田 慎哉

● 品種

ペチュニアの花色は白、ピンク、赤、黄、紫等の単色のものやその濃淡のほか、咲き方にも変化は多く、星形に斑が入る星咲きや花弁が白く縁どられている「ロニー」咲き、弁元に白いぼかしの入る咲き方等があります。

多くはラッパ型の単純な花形ですが、「八重咲き」や花弁が「フリル状」に波打つもの、「アサガオのように「平ら」に咲くものなど種類は多彩です。草姿にも立ち上がってこんもりと茂る「ブッシュタイプ」と、ブドウのように広がる「クリーピングタイプ」があり、植え場所や合わせる植物などによって様々な楽しみ、その品種選びもペチュニア栽培の魅力の一つです。

● 栽培のポイント

生育も旺盛で長く咲き続けるので、肥料切れしないように花のある間は月に1回、必ず追肥を行います。

苗は随時摘心し、脇芽を多く出させ横張りの株にすることが大切です。ペチュニアの花は雨に弱いと言われていますが、強い雨にたたかれて傷むより、「高湿度」で発生する灰色カビ病によって花弁が腐る等の被害が多いことから、なるべく乾かしぎみの水管理を心掛けましょう。

● 種まき

4月～7月上旬に、種まき専用培養土を用いて行い、十分に吸水させてから種まきを行いましう。

行いましう。

芽が出るまでは湿らせた新聞紙で覆い、直射日光を防ぎ乾かないように「霧吹き」等を行い管理しましう。1週間程度で発芽しますので、その後良く日に当て乾きぎみに管理しましう。

● 定植

本葉が2～3枚目のころ、5センチ間隔に仮植し、6～7枚のころに花壇やプランターに定植しましう。花壇の元肥は1平方メートル当たりたい肥1キロと緩効性肥料50グラム程度を施用し、腐葉土についても少し多めにすき込み40センチほど間隔をあけて定植しましう。

プランターは出来るだけ大きなサイズのものを使用し、25～30センチほど間隔をあけて定植しましう。

● 開花後の管理

日当たりが良く、風通しの良い場所で育てましう。日当たりが良いほど花がたくさん咲きます。風通しが良いと丈夫な株となり、病害虫の予防にもなります。

水やりは、土の表面が乾いたら、花に水がかからないように根元から水を与えましう。

追肥は、定植後1～2か月程度の間には緩効性肥料を再度与えましう。その後、1週間に1回程度水やりのかわりに薄い液肥を与えます。生育が早く、花数の多い株ほど肥料を必要とします。葉の色が黄色くなるのは、肥料不足のサインの場合があります。

ペチュニアをより長く美しく楽しむためにも、「花がら摘み」はこまめに必ず行いましう。

● 切り戻し（ピンチ）

「ブッシュタイプ（花立性）」の品種は、切り戻しを行わないと茎が伸びすぎてだらしない感じになってしまします。株元から10～15センチ残して切り戻しを繰り返しましう。

降雨後や真夏の日中等に株元までの深すぎる切り戻しは、株にダメージを与えますので注意が必要です。

ペチュニアは脇芽が増えて株元が埋まるまで切り戻しを繰り返しまし、出来るだけ株を大きく育ててきれいな花を育てましう。



写真提供 素材三味HPより